レーザー学会関西支部の発足

阪部 周二[†]

Establishment of The Laser Society of Japan-Kansai

Shuji SAKABE[†]

レーザー学会は大阪の地から1973年に発足して以来，今日までに東北・北海道，東京，中部，中国・四国，九州の支部が組織され，各支部独自の特徴的な活動が行われている．しかしながら，大阪に学会事務本部が置かれていることから関西圏には支部は組織されておらず，全会員のほぼ3分の1の関西圏の会員には，各支部が積極的に取り組んでいるような地域に密着した事業を提供できていない．このような状況を鑑み，レーザー誕生50年事業の一つとして関西圏の支部発足が学会運営審議会にて議論され，昨年の理事会にて承認された．学会会長より27名(25大学・企業)の関西支部発足準備委員が委嘱され，さる11月16日に大阪大学にて20名の出席のもと準備委員会が開催された．八木 重典副会長の挨拶の後，山本 和久常務理事(同委員長)による趣旨説明に対し賛同が得られ，支部規定の策定を行い，名称を「関西支部」とすることでここに発足した．引き続き，同準備委員に支部運営委員への委嘱が願われた．また，初代の支部長に筆者，副支部長に石野 正人氏(パナソニック(株))，庶務幹事に戸田 裕之氏(同志社大学)，研究会幹事に吉田 実氏(近畿大学)，財務幹事に中井 光男氏(大阪大学)が委員長より推薦され承認された．ひきつづき第1回の支部運営委員会が開催され，今後の事業(運営委員会，研究会，褒賞など)のあり方について検討が行われた．会の後，懇親会が行われ，異分野の運営委員が互いに交流を深め，発足を祝うとともに今後の連携・協力を約束した．

以上の経緯をご報告いたしますとともに，この度支部長を拝命いたしましたので，巻頭の面を借りましてご挨拶申し上げます．

極小の素粒子・原子核から生命や地球を含むマクロ物質，そして極大の宇宙など多階層から成り立っている自然界のどの階層の物理を論じる際にも重要な要素，それは「光」です．光を自由に操ることができるようになったのは，20世紀最大の発明の一つと言われる「レーザー」が出現した時からであり，それまで観測という比較的受身の対象でしかなかった光をレーザーにより能動的に制御・利用することができるようになりました．レーザーが光科学を開花させたといえます．レーザー誕生50年を経た現在，レーザーは科学のみならず産業界，医用など日常生活に密着した応用にまで広く普及しており，レーザー技術・応用は未だにさらなる進化・発展の途にあります．これからの可能性や夢に思いを馳せますと，「開花した」ではなくまだ「つぼみ」かもしれません．世界初のレーザー発振から僅か13年後の1973年に早くも我が国にレーザー及び関連科学・技術の学界・産業界での発展を支援する「レーザー学会」が発足されました．発足以来40年近くになろうとしている現在，レーザーの汎用性は高まり，おそらくレーザー学会会員数の100倍以上の人がレーザーを利用しているでしょう．また，レーザーの普及とともに学会を取り巻く環境も変化し，多くの関連する学会の有機的な連携も求められます．学会としましてはこのような情勢の変化を常に把握して学会の事業を計画することは重要ですが，学会員一人一人の期待されることが学会に求められるニーズになります．このような会員と学会との距離を短縮することが支部の重要な役目の一つです．単に物理的な距離が近いだけではなく，密度の高い議論のできる小研究会，討論会，若手講演会，立寄見学会，草の根的共同研究などを会員自身が気安く企画・提案・実行できる環境を提供できるのが支部であると考えております．今後，このような事業を広く募集し，開催などの案内は会誌「レーザー研究」やホームページを通じて行ってまいりますので，支部会員はもとより他の支部からも積極的な参加をお願いいたします．今回，支部運営委員を務めていただきます方々の専門分野はレーザー学会の分野分類のA～Iすべてにわたりますので，あらゆる分野での活動も期待いたしております．会員各位，運営委員各位のご協力をいただきまして，微力ではございます任を務めさせていただきます．今後の関西支部での積極的な活動，ご支援ご協力をお願い申し上げます．

[†]京都大学 化学研究所 先端ビームナノ科学センター（〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄）
[†]*Advanced Research Center for Beam Science, Institute for Chemical Research, Kyoto University, Gokasho, Uji, Kyoto 611-0011*